

清瀨一郎 きよせ いちろう 辯護士、政治家。明治十七年七月五日兵庫縣生れ、昭和三十二年六月（二十七日夜）（八拾一・九六七）。明治四十二年京都帝國大學法科卒。辯護士開業後、大正二年ブルサン大學に留學。イギリスに渡り五年に歸國し、『發明特許制度ノ起源及發達』（大正七年刊）別冊増補完全版・平成九年二月四百學術選書）を以て京都市大より學位を得る。九年衆議院議員（當選千四百）、爾後議會活動を併行して京大法学部事件等の辯護に當る。戰時中大臣官費會總務、戰後ハ公職追放に、東京裁判には東條英機の主任辯護士となり、勝者の裁きを批判。（二十七年政界復帰、また憲法九條の枠内が再議可能とする清瀨理論を）作る。二十五年衆議院議長として新安保麻約を「強行採決」。

著書に『清瀨一郎政論集』（大正十五年十一月十四日人文會出版部）、『入一代之法律』（昭和十四年十一月十七日東京財政局「女子明徳會講義集」）、『正氣一五・一五事件海軍刺殺事件對その辯護記録』（昭和十八年八月十五日砂子屋書房）、『秘録東京裁判』（昭和四十二年二月十日読売新聞社）、六十二年七月十日中央公論社「中公文庫」等。



發明特許制度ノ起源及發達

秘録 東京裁判 清瀨一郎 読売新聞社刊

秘録

東京裁判

18年の沈黙を破る秘録

「東京裁判は、本来復讐の裁判であった——」当時日本人弁護団副団長として、また東条英機の主任弁護人として活躍した清瀨一郎氏は、在野をかえりみず新たな感懐をもって、裁判にまつわる秘話をはじめて伝える。膨大な資料をくわかにかきとっていた難問も、18年間の沈黙を破ってここに明らかにされた。

¥420